

～「学研木津北地区」というのは鹿背山の里山のこと 里山活動を楽しみながら、里山再生に取り組んでいます～

里山の恵み

人々に利用されることで適切に管理された里山は、山菜などの食料やきれいな飲み水の提供、水害や土砂災害の抑制など、さまざまな恵みや生活の安全をもたらしてきました。

また、生活にやすらぎを与える景観や、生きものの観察や野外活動などの楽しみを提供してくれます。



里山の恵みは、一度消費してしまえば終わりという使い捨ての資源

ではなく、切り株から萌芽することで木が再生し繰り返し利用できる持続可能な資源です。

かつての里山では、植物の再生周期を理解して適



切な時期に必要な分だけ利用するサイクルが確立されていましたが、薪や炭などのエネルギー源を得ることがなくなったことから、萌芽更新されなくなった樹木は大径木となり、なら枯れ被害を受けるようになりました。

野生動物の被害

古来より、シカやイノシシなどの野生動物の恵みを受けて暮らしてきましたが、野生動物と人との間には適当な距離がありました。しかし、利用されない里山が増えたことで野生動物の棲家が増え、シカやイノシシの数が増加していると思われます。

放置されていた田畑を再生し、せっかく栽培した農作物が食べられたり、畦を掘り返し崩されるなどの被害を受けています。

昨冬には、イノシシ3頭とシカ1頭を捕獲しましたが、被害が減らないことから相当数が生息していると思われます。

進まない資源の活用

活動団体では、枝の落下や倒木の危険がある立ち枯れ木を切り倒し、安全な通路を確保する取組を進めています。

切り倒した樹木の一部は、薪やシイタケの原木に使用していますが、大径木は玉切りしても重量があり人力での持ち出しは容易ではないことから、薪などの資源として活用されず、現地で朽ちるのを待つ状況にあるのは、あまりにももったいないです。



里山へGO！（里山活動に参加してみよう）

鹿背山で里山活動をしたいと思っても、木を切ったことがなく、農作業をしたことがない人にはなかなか行けないですね。

現在、鹿背山では9つの団体が、鹿背山城の景観を保全したり、里山資源の持続的な活用や特産の柿の生産技術を伝承しながら恵みを分け合ったり、放置水田を耕してカスミサンショウウオの居場所を整備するなど、さまざまな活動が進められていますので、まずは活動を見学することからはじめてみませんか。

気になる活動があれば、気軽に連絡ください。